

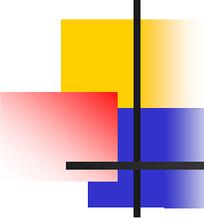
大学図書館における 学習・教育支援サービス

同志社大学総合情報センター
井上真琴

本日の構成

1. 学習・教育支援サービス重点化の背景
2. サービスの現状と課題
3. 学習・教育支援のための模索
4. 欧米大学図書館との比較から

1. 学習・教育支援サービス重点化の背景



大学が直面している問題

- 少子高齢化、国際化、緊縮財政、評価活動、競争的資金の導入
- 2006年大学・短大進学率 52.3% (過去最高)
- 全入時代: 2007年問題
- 推薦入学者の50%超 (私大/2007年予測)
- エリート マス ユニバーサル
米国の基本原理: ユニバーサル・アクセス

館昭著『現代学校論 - アメリカ高等教育のメカニズム - 』
(放送大学教育振興会、1995)

館昭、岩永雅也編著『岐路に立つ大学』(放送大学教育振興会、2004)

米国大学の特徴

設置者の多様性

州立、学校区、市、特別区、
連邦、私立、企業

多様性

目的・機能の多様性

学位の多様性
学問学位、専門職学位

在籍者の多様性

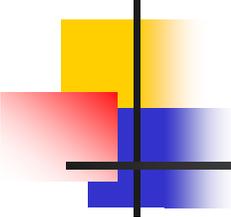
若年層だけでない就学人口

カーネギー教育振興財団：「カーネギー分類」(目的・機能別のタイポロジー)
<http://www.carnegiefoundation.org/Classification/> (参照2005-9-20)



設置： 各州が認可 / 州の高等教育基本計画(マスタープラン)

質の維持： アクレディテーション協会(機関・専門)



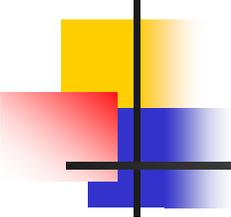
大学改革の流れ

- アメリカ教育省『日本教育の現状』(1987)
- 大学審議会(1987) 文科省中教審大学分科会(2001)
- 大学設置基準の改正:大綱化(1991)
カリキュラム改革、授業評価、教授法の改革、シラバス作成 = 教育改革
- 大学審議会『21世紀の大学像と今後の改革方策について』(1998)
課題探求能力の育成、教養教育の重視
- 中央教育審議会『我が国の高等教育の将来像(答申)』(2005)

(教育面での重点)

文科省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)

〃 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)

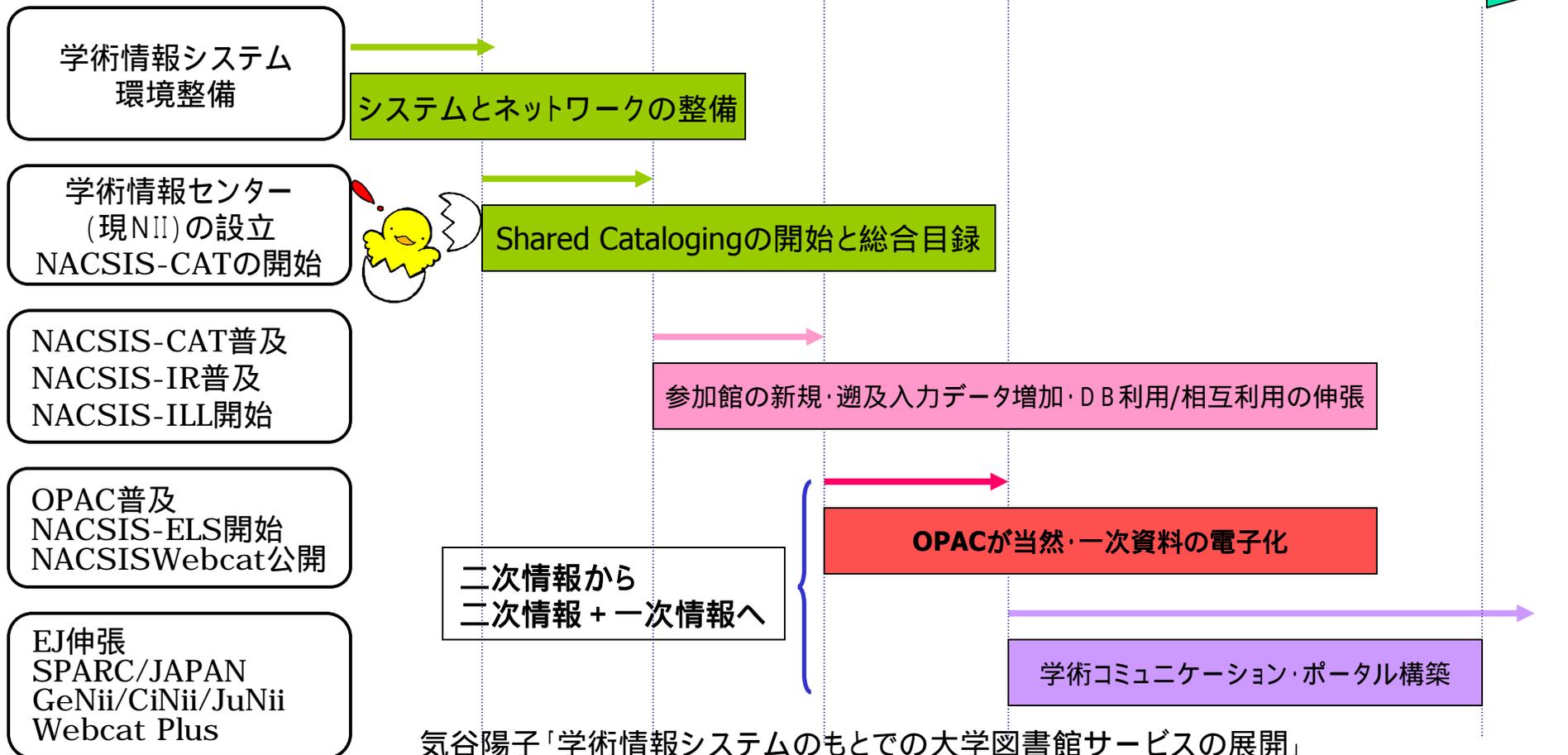


大学図書館政策の流れ

- 「大学図書館機能の強化・高度化の推進について(報告)」(学術審議会、1993)
学習活動の場としての図書館
- 「大学図書館における電子図書館機能の充実・強化について(建議)」(学術審議会、1996)
図書館の協力のもとに情報リテラシー教育
- 「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」
(科学技術・学術審議会、2006)

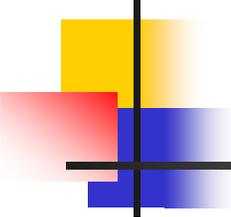
学術情報システムの歩み

1980 ... 1983 1984 ... 1988 1989 ... 1993 1994 ... 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006



気谷陽子「学術情報システムのもとでの大学図書館サービスの展開」
(『日本図書館情報学会誌』Vol.49(4)) を参考に作図

2. サービスの現状と課題

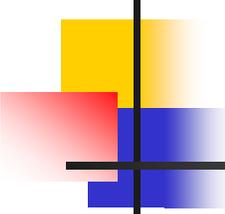


日本の現状調査と海外との比較調査

- 三浦逸雄代表「大学図書館の学習・教育支援機能に関する日米比較研究」
(科学研究費基盤研究(B) 2000－2001年度)
- 同 『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能－アンケート調査結果－』(2002)

<http://www.cl.aoyama.ac.jp/~tnozue/ugl/report-main.pdf>

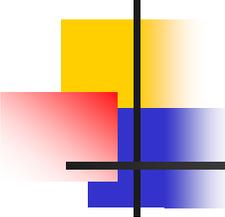
(参照2006-9-30)



アンケートの結果：実施上位項目

| | |
|------------------|------------|
| ■ 図書館サービスの実施状況 | 実施館(比率) |
| 1. 学生購入希望図書制度 | 440(93.6%) |
| 2. 新入生オリエンテーション | 436(92.8%) |
| 3. 図書館内での文献利用教育 | 407(86.6%) |
| 4. 教員推薦図書制度 | 339(72.1%) |
| 5. 館内コンピュータールーム | 332(70.6%) |
| ■ 電子図書館サービスの実施状況 | 実施館(比率) |
| 1. Web上での利用案内 | 372(79.1%) |
| 2. // リンク集の維持管理 | 273(58.1%) |
| 3. // 有料外部DBの提供 | 260(55.3%) |
| 4. // 電子ジャーナルの提供 | 215(45.7%) |
| 5. // 文献複写依頼の受付 | 182(38.7%) |

回答館：470



アンケートの結果：課題の重要度

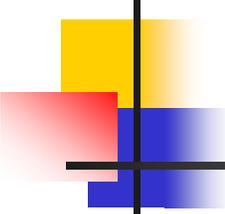
- 『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能－アンケート調査結果－』

学習・教育支援の強化・充実のための課題で、特に重要だと思われる上位5項目

1. 図書館員の能力開発 **283 (60.2%)**
LIPER報告書

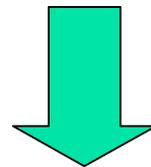
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/liper/report06/report.htm> (参照2006-9-16)

2. レファレンスサービス機能の強化 238 (50.6%)
3. 蔵書構築で教員との密接な関係 233 (49.6%)
4. 授業と図書館との連携 219 (46.6%)
5. 情報技術の専門家 212 (45.1%)



喫緊の課題群

- 教育との結びつきの希薄さ
- コレクション構築の不確かさ
- 「場所」としての図書館
- 利用者理解の不足

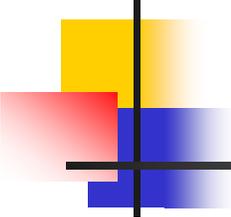


図書館がどのように、学生の学習成果の実現に寄与できるのか

文科省ヒアリングでの永田治樹先生のご指摘(2005.2.15)

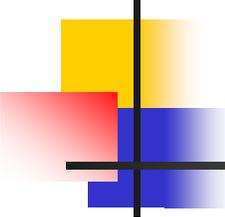
「 . 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」(スライド5前掲 科学技術・学術審議会 2006.3.23)

3. 学習・教育支援のための模索



主な実践項目

- 情報リテラシー教育
初年次(導入)教育、eラーニング、パスファインダー
- ポータル作成とVLE連携
統合検索機能、MyLibrary機能
VLE: 学修支援システムとの連携
- 学習用コレクション構築への努力
予算確保、学生用選書の工夫
- 総合的学習作業スペースの創出
Information Commons, Learning Commons
(4. 欧米大学図書館との比較から で解説)



情報リテラシー教育

- 情報リテラシー教育の取組み事例

東北大学、三重大学、名古屋大学、横浜市立大学、慶應義塾大学

- パスファインダー

東京学芸大学(E - TOPIA)、名古屋大学(情報への道しるべ)、愛知淑徳大学

- eラーニング

東京大学(ネットでアカデミック)、慶應義塾大学(KITIE)

- 今後の課題と新たな視点

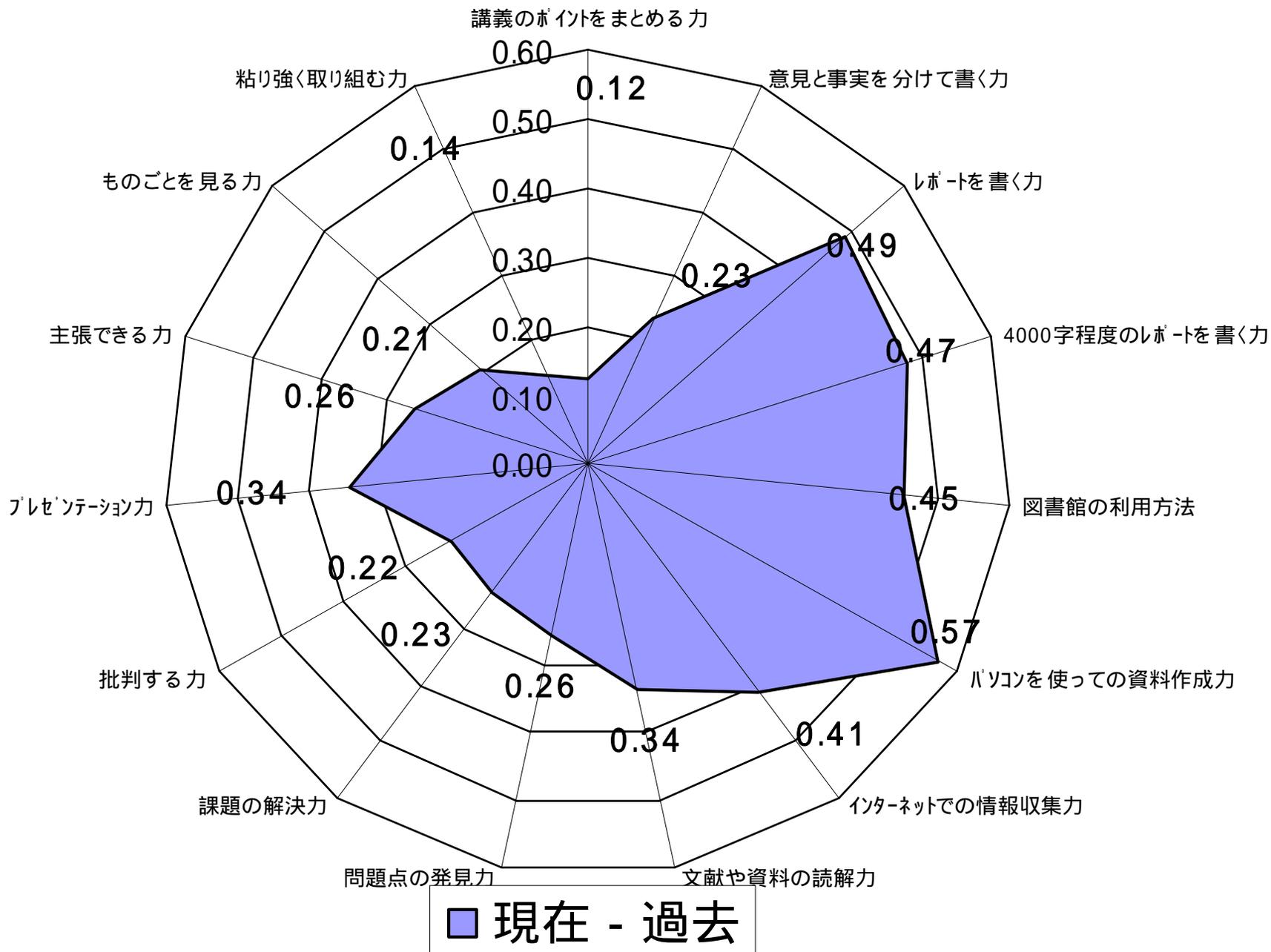
情報源紹介、操作法解説からの脱皮

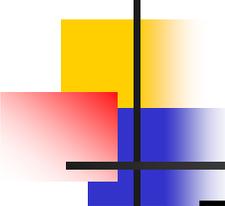
教育との連携による統合型アプローチへ

情報評価スキルの確立

伸び値

学生の自己評価アンケート回答(入学前との比較):アセスメント





ポータル作成とVLE連携

■ 図書館ポータルの意味

図書館提供の各種情報資源および利用サービスを、統合的に整理組織化して提供する窓口サイト

受信ポータル

・統合検索機能 筑波大学、東京学芸大学

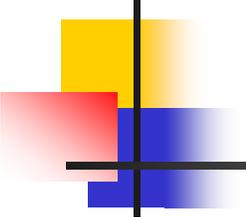
・MyLibrary機能(パーソナライズ機能)

京都大学、同志社大学、立命館大学

発信ポータル

学内で電子的に生産される研究成果・電子的教材などを蓄積保存し、メタデータを付与するなどして発信(機関リポジトリ)

- VLE (Virtual Learning Environment 仮想学習環境)連携
学修ステューデント・ポータルと図書館提供情報資源との結びつけ



同志社大学での効用

- MyLibraryの活用

利用状況確認、お知らせ、Bookshelf、統合検索等の機能

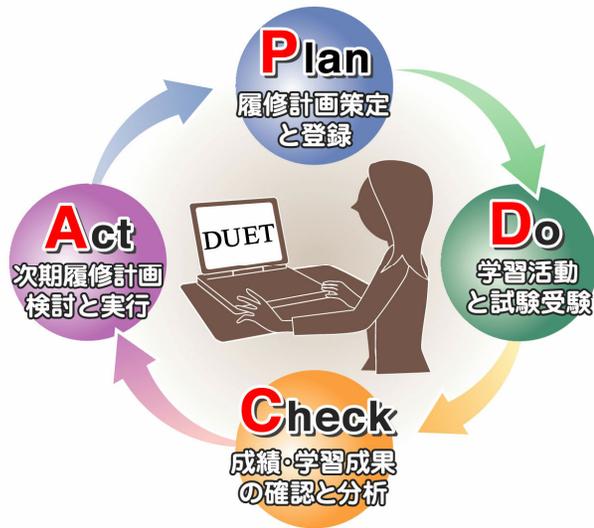
参照：天野絵里子, 原健治, 石井奈穂子「MyLibraryサービスの現状と可能性
京都大学・同志社大学・立命館大学の事例から」(『大学図書館研究』
75)

- 学修支援システム(教務部管轄)との連携

Web科目登録、シラバスとOPACとのリンク

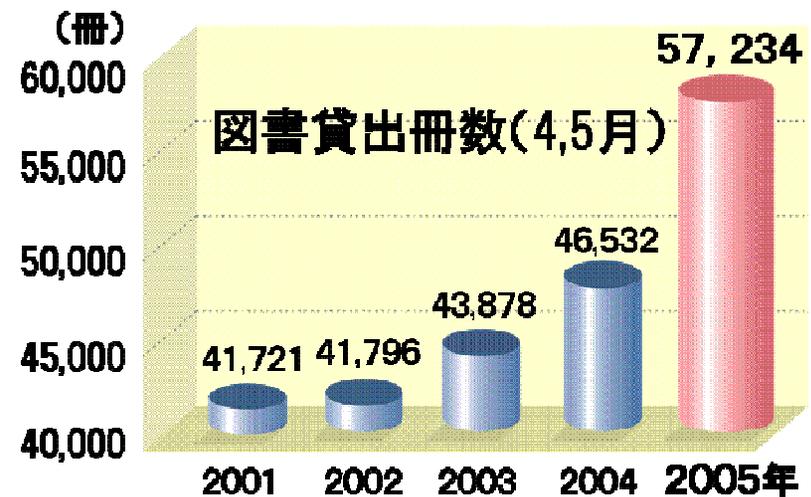
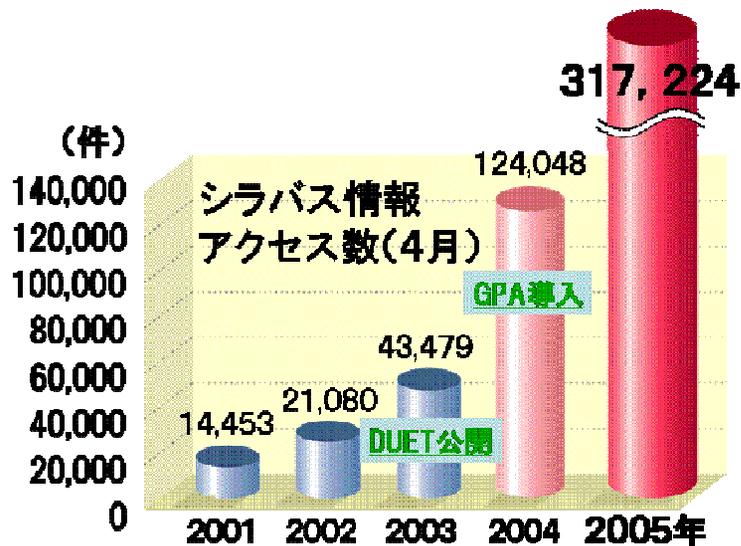
貸出23%増・ベストリーディング図書占有率70%

学修支援システムとの連携



シラバスとOPACの連携

- ・Webでの科目登録(シラバス参照)
- ・シラバスの参考文献と図書館システムの連携
- ・他の連携可能性: Course Reserveほか



『平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム」申請書』より

学習環境のマッピング

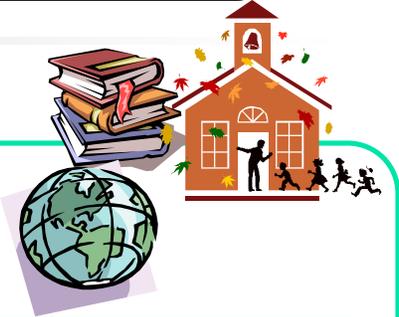
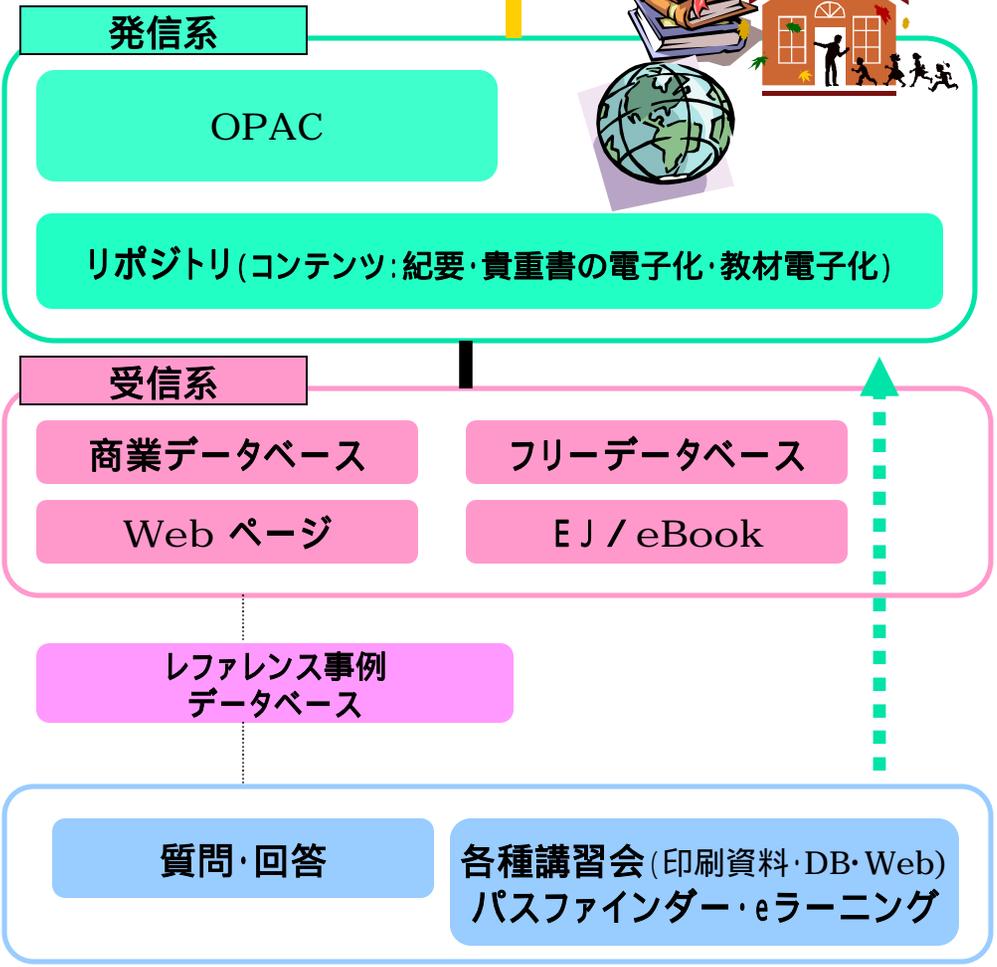
VLE
学修(学習)支援環境
シラバス・教材管理・学修管理

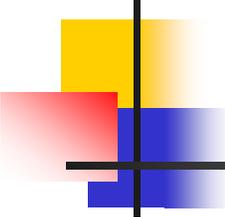


どうやって
必要な情報
を探せばよい
の?

学術ポータル
テクニカル面

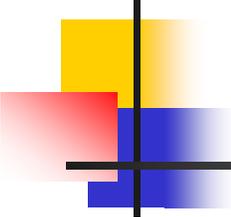
レファレンス
情報リテラシー
講習会
サービス面





学生用蔵書構築の実際

- 学生用資料費の確保
 - 研究用資料予算との峻別・財務サイドへの働きかけ
- 図書館員による構築体制の確立
 - 組織体制と選書能力の向上策
- カリキュラム内容の把握
 - シラバス等の理解・レポート課題の調査
- 教員の理解



同志社大学での予算配分と選書体制

- 学習用資料と研究用資料の分離所管
図書館資料費の研究用資料費への流用なし
- 館員による選書体制
カリキュラム第一義の収集方針
全点見計い選択:資料収集作業部会(6-7名)
蔵書構築「資料選択基準」(約100頁)維持改訂

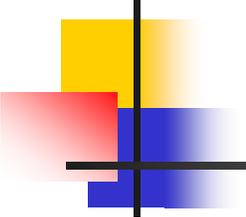
4. 欧米大学図書館との比較から

何が相違点か

- 教育思想の根本的な違い
- 多様化に応じたサービス
- 豊富な電子情報源



同志社大学在外研修プログラム(3ヶ月)による視察



事例：情報リテラシーとレファレンス

- 情報リテラシー教育

 - 電子情報源が豊富

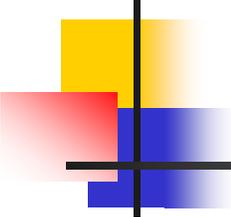
 - Active Learningの流行

- レファレンスサービス

 - 毎週のReading assignment, Required books

 - Term Paperの作成に主題担当(サブジェクト・ライブラリアン)が応対

 - デジタルレファレンスの展開



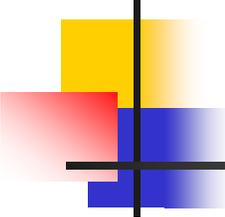
事例：場所としての図書館

- 創造的学習作業スペース：
Information Commons, Learning Commons

情報機器と図書館資料の融合利用
レファレンスや技術支援等の人的サービスの統合
アメニティの工夫 (Caféや談話室)

ILC Information Commons, University of Arizona
[Du Bois Library Learning Commons, UMass, Amherst](#)

参照：米澤誠「インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援」(『カレントアウェアネス』 No.289, 2006)



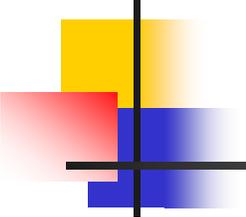
教育と図書館をどうつなげるか

- シラバス指定教材、参考資料の整備
- シラバスとOPAC等の連携
- 学生用図書を選書
- 特定分野のパスファインダーの作成
- データベースや電子レファレンスの説明会
- 展示会・講演会の開催

米：サブジェクト・ライブラリアン

英・豪：リエゾン・ライブラリアン

まとめ



今後の学習・教育支援に向けて

- 図書館員が教育内容に敏感になり、教員との連携を意識していく
- 自大学の特性と環境に応じて、地に足がついた学習・教育支援を企画する **違いは機能**
- 教育内容の多様化に対応して、図書館サービスも自由な発想で